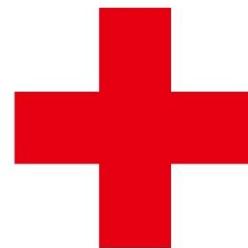


令和7年度 事業計画・予算(案)

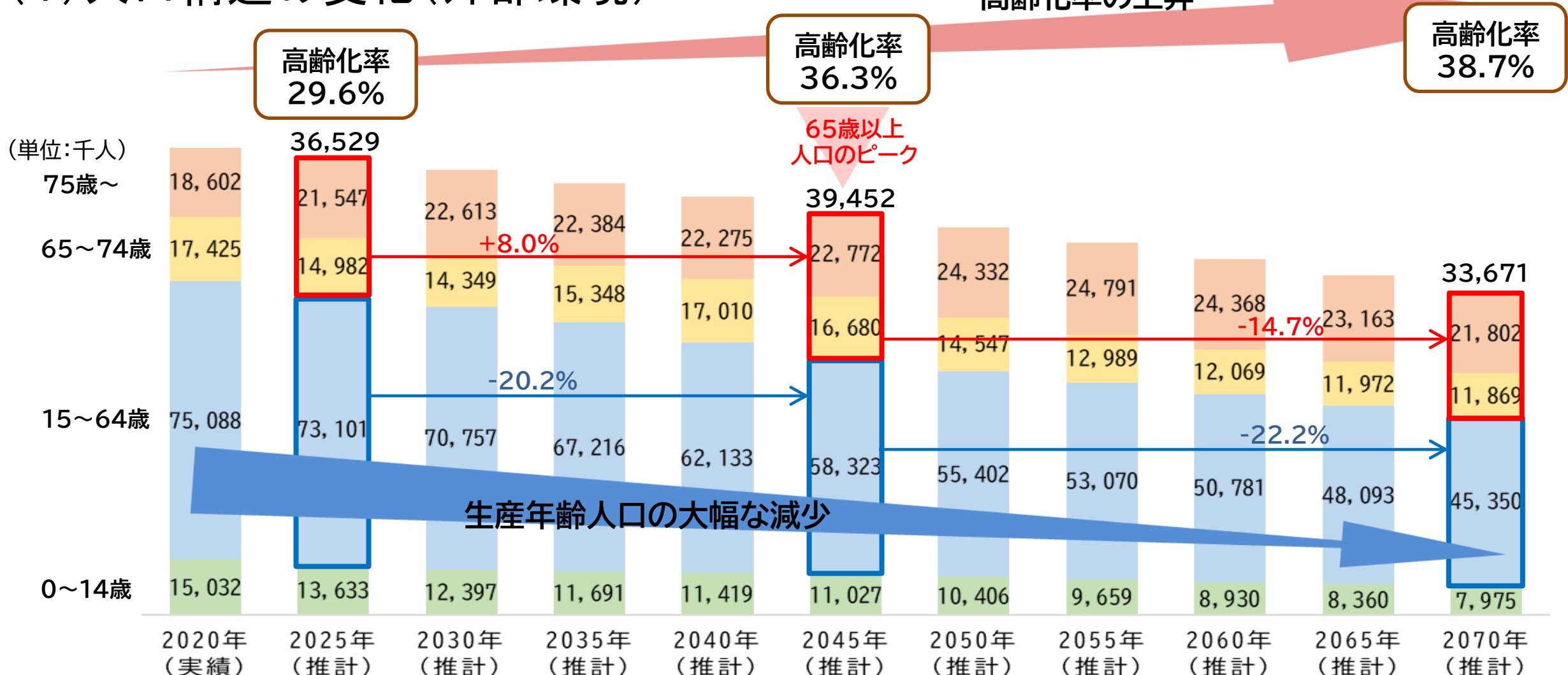
(医療施設特別会計)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 医療事業を取り巻く社会課題

(1) 人口構造の変化(外部環境)



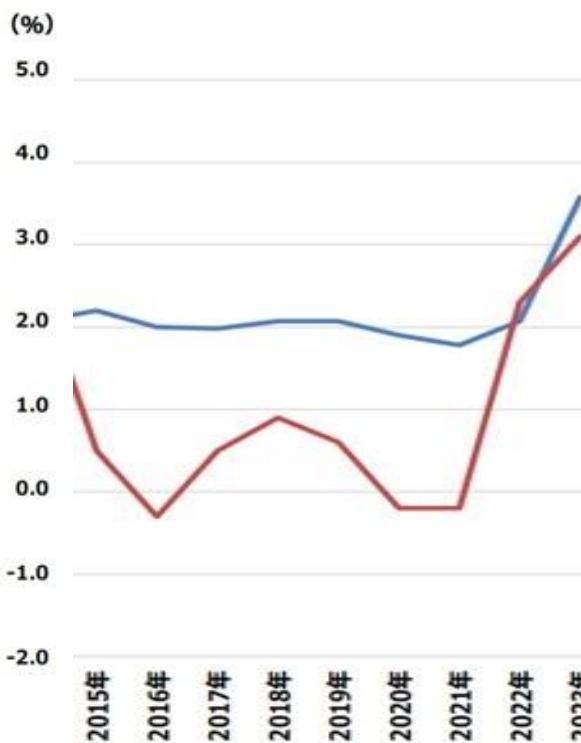
(出所) 総務省「国勢調査」「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 令和5年推計」一部改変

(2) 社会経済状況の変化(外部環境)

▼賃金と成長の好循環「賃上げのための9つの方策(首相官邸)」から

▼賃金、物価上昇

▼賃上げ率と消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)の推移



【賃上げ率:青線】

2023年 3.58%
⇒ 2024年 5.10%

【消費者物価指数

(生鮮食品を除く総合):赤線】

2023年 3.1%
⇒ 2024年(～9月) 2.5%

(出所)連合「2023春季生活闘争第7回(最終)
回答集計結果」(2023年7月5日)およ
び総務省「消費者物価指数」をも
とに作成。

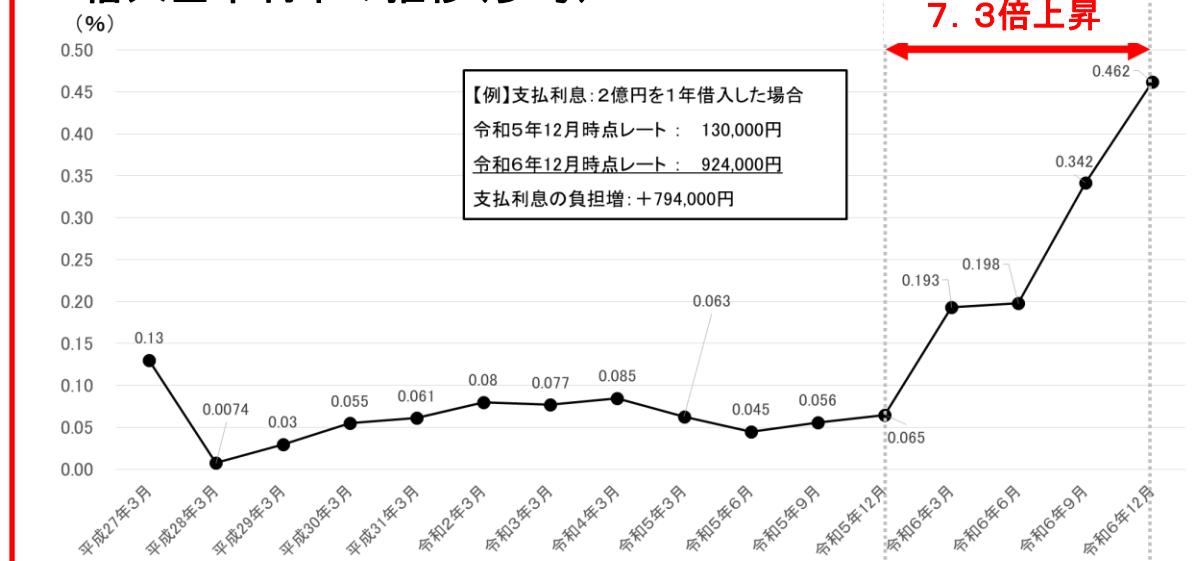
(注)消費者物価指数は対前年比の値。

(出典)内閣官房「新しい資本主義実現本部
事務局(令和6年2月27日)」



▼金利上昇

借入基準利率の推移(参考)



(3) 財務上のリスク(内部環境)

- 慢性的な赤字経営の病院(28病院)が有する
赤字補填資金借入:556億円(令和5年度末)(※)

※ 赤字補填資金借入

通常業務で発生しうる運転資金借入額の範囲を超え、慢性的に
借り換えを繰り返している運転資金の総額を指す



- 外部に流出する利息は、年間約3億円(R6.12月時点)
- これまで市中銀行からの資金貸付は、日本赤十字社
全体としての信用力を背景に実行してきた
- 病院にとって借金に対する危機意識が希薄

(4) 大規模營繕のリスク(内部環境)



- 約3割の病院で築30年超
■約5割以上の施設で2040年までに
法定耐用年数の39年を超える

- 近年の建築コストの増加
- 自己資金の目標金額に達しない
- 外部の借入金への依存
- 建築後の多額の借入金の返済
- 建築できない場合の閉院・譲渡、負債処理

2. 令和7年度事業計画概況

医療事業	入院患者延数※1	10,098,992人(対R6見込比+359,329人、3.7%増)
	新入院患者数※1	797,374人(対R6見込比+28,428人、3.7%増)
	外来患者延数※1	14,896,726人(対R6見込比+139,572人、0.9%増)
	労働分配率※2 (委託費含む)	83.7%(R6見込86.5%、2.8pt減)
看護師等養成	養成数 (定員数)	看護師:1,115人(専門学校9校、大学6校7学部) 助産師:88人(助産師学校1校、大学1学部4大学院) 保健師:154人(大学6校7学部)

- ※1 各医療施設における患者受療動向、稼働日数、医師の配置を含めた各診療科の状況、医療機器等の新規導入などによる手術件数への影響、病床稼働率など直近の状況を踏まえ算出した数の合算
- ※2 労働分配率=(給与費+委託費)／(医業収益-材料費)

3. 令和7年度の主な取り組み(重点事項)

- (1) 災害時における地域医療の継続
- (2) 各地域における地域医療構想等に基づいた医療提供体制の整備
- (3) 赤十字病院グループ全体の医療の質の向上
- (4) 広く社会に貢献できる専門性の高い看護師の養成
- (5) グループ経営の推進による安定した経営基盤の確立

(1) 災害時における地域医療の継続

医療措置協定に基づく備え・ 研修の実施

事業継続計画(BCP)・ 感染症対策マニュアルの実効性の向上

全ての赤十字医療施設が都道府県と
締結した医療措置協定に基づいた、
設備・備品の整備、研修の実施

病床の確保	89施設	1,763床
発熱外来	75施設	1,368人/日
自宅療養者対応	26施設	－
後方支援	31施設	－
医療人材派遣	66施設	546人 (医師、看護師等)
個人防護具備蓄	N95マスク、ガウン等 (平均2カ月分の備蓄)	

■ BCPの実効性の向上

- ・評価基準に基づいた各施設のBCPの評価の実施
- ・BCPに基づく訓練の実施など

■ 感染症対策マニュアルの改訂

- ・新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ作成されたガイドラインに沿って、各施設の「新型インフルエンザ等感染症対策マニュアル」を改訂

(2) 各地域における地域医療構想等に基づいた医療提供体制の整備

地域医療構想に基づく再編統合

宮城県

○仙台赤十字病院(389床)・宮城県立がんセンター(383床)

- ・令和5年12月に宮城県等と基本合意書を締結し、令和12年度を目途に新たな赤十字病院としての運営開始に向けて、引き続き協議・検討を行っていく。

滋賀県

○長浜赤十字病院(492床)・市立長浜病院(565床)・長浜市立湖北病院(140床)

- ・指定管理者制度の導入を目指し協議を進めているが、令和6年12月に市立2病院の大幅な赤字見込みが公表されたことで、協議の難航が予想される。

廃止

秋田県

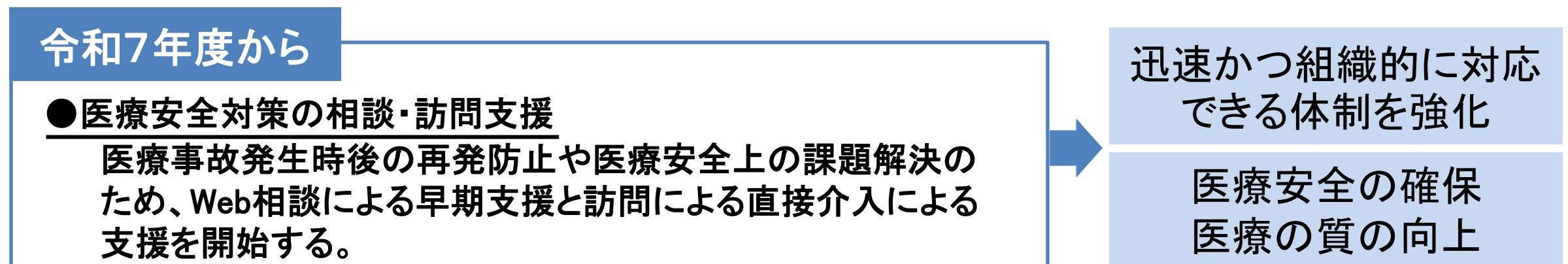
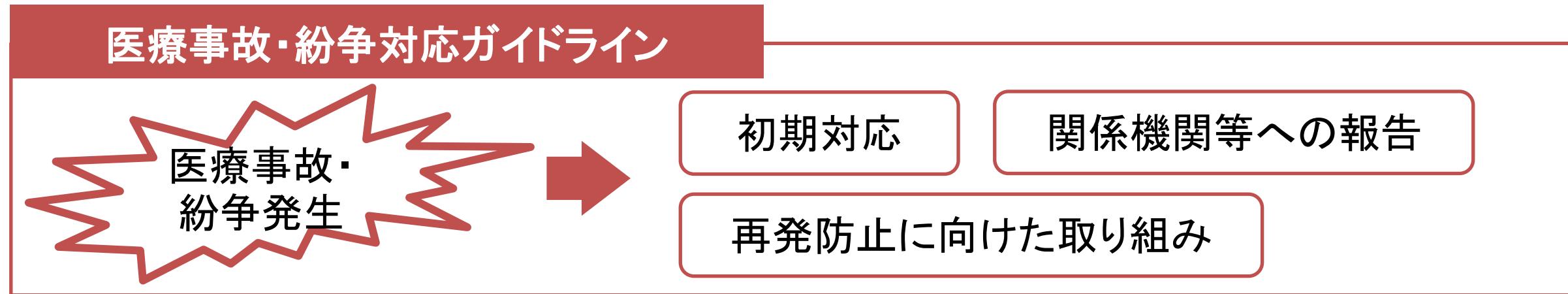
○秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター(診療所)

- ・施設・医療機器の老朽化と人口減少による将来的な受診者の減少により、令和7年4月30日をもって廃止する。

(3) 赤十字病院グループ全体の医療の質の向上(医療安全の確保)

■ 医療安全対策の体制の強化

赤十字医療施設における医療事故等については、「日本赤十字社医療事故・紛争対応ガイドライン」に基づき、初期対応や関係機関等への報告、再発防止に向けた取り組みをしている。



(3) 赤十字病院グループ全体の医療の質の向上(医療DXの推進)

■電子処方箋の導入

処方箋の情報を電子化し、マイナ保険証を活用して複数の医療機関や薬局がオンラインで即時に情報を共有できるサービスである「電子処方箋」の導入を推進する。

令和5年度導入済	4施設
令和6年度導入見込	63施設
令和7年度以降導入予定	19施設

※令和6年9月末時点 ※未定:4施設

■サイバーリスクへの対応

各医療施設のサイバー攻撃へのリスクに対して、赤十字病院グループメリットを活かした総合的な情報セキュリティ対策の検討を進める。

■マイナ保険証の利用促進

令和7年12月の健康保険証の廃止までに、引き続きマイナンバーカードの利用を促進する。

国の推進する医療DX、各赤十字病院が実施する患者サービス向上のための医療DX、業務の効率化のための医療DXの推進により医療の質の向上を図る

(4) 広く社会に貢献できる専門性の高い看護師の養成

日本赤十字社が目指す 看護師等養成事業

赤十字の基本原則に基づく看護を実践し赤十字の理念である人道を具現化できる看護師等の養成



■ 特定行為研修の推進

赤十字全体で特定行為研修を推進しており、指定研修機関として管理運営や申請の支援、研修支援などに取り組み、令和6年度時点で、赤十字医療施設の約8割の72施設において486人が在籍している。

年度 (毎年度10月時点)	目標値 (累積人数)	赤十字 (全国に対する割合)	全国
令和4年度	—	200人(3.2%)	6,324人
令和5年度	267人	397人(4.5%)	8,820人
令和6年度	450人	486人(4.2%)	11,441人
令和7年度	500人		

令和7年度は研修修了者500人を目指し、グループメリットを活かした養成を行うためeラーニングの全面改訂等により、特定行為研修をさらに推進する。

(5) グループ経営の推進による安定した経営基盤の確立

ア. グループが有する経営資源の有効活用

ヒト

医師・看護師等のグループ内派遣、病院支援における地域拠点の設置、
事務職員・事務部長候補者の育成

モノ

大型医療機器の共同入札への参加拡大、医薬品／診療材料の共同購入、
購買専門スキルの向上(本部・各施設)、設計・施工ガイドラインの作成

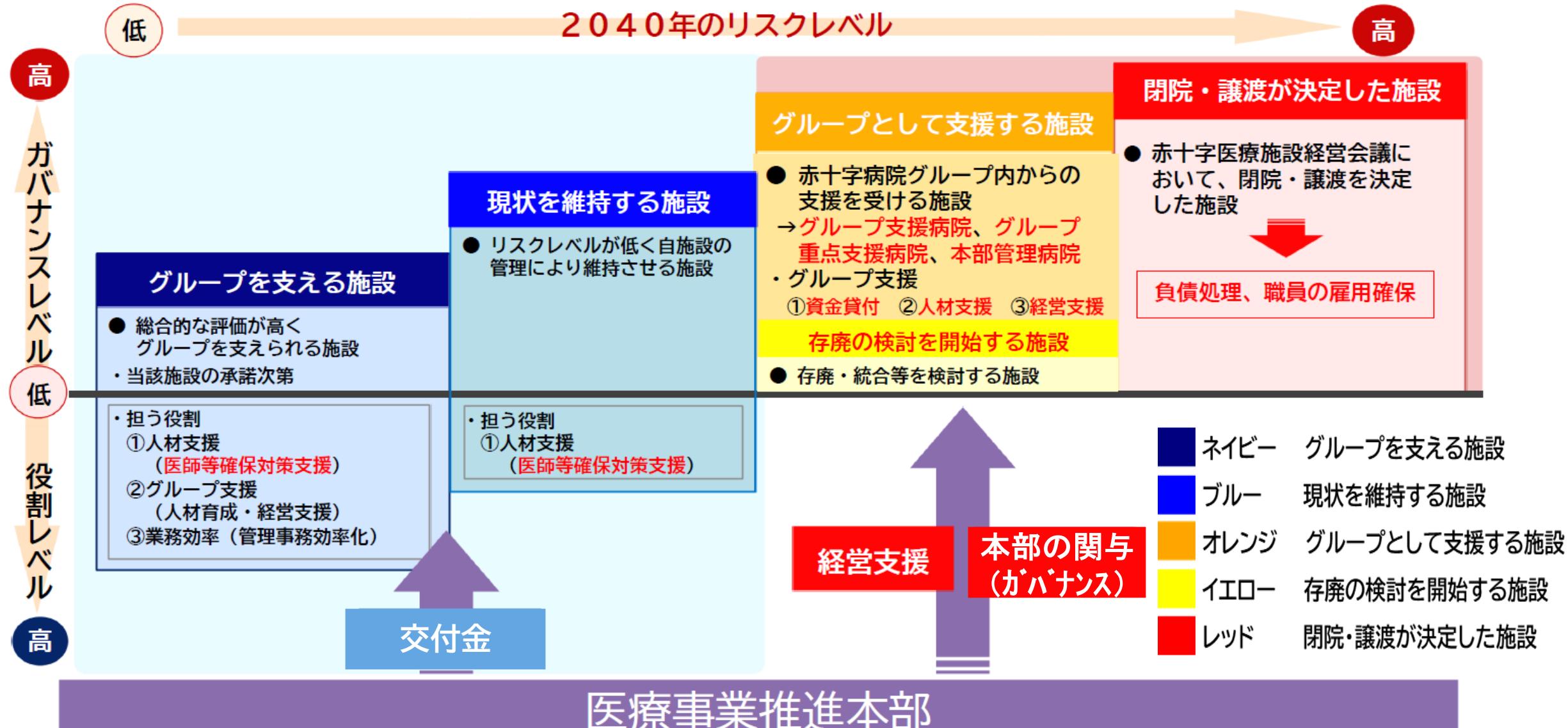
力ネ

新たな内部資金制度によるCMSの運用開始(CMS: cash management system)、
借入にかかる本部の関与(ガバナンス)の強化、設備投資資金の内製化にかかる検討開始

DX

電子カルテの全施設導入、電子処方箋の導入、
ICT化基本構想に基づく業務の効率化、サイバーリスクへの対応

イ. 各赤十字病院の立ち位置・役割の明確化



ウ. 「グループとして支援する施設」への支援内容

支援区分	具体内容
経営支援	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 本部による病院経営への関与 ➢ 支援病院等の中心として活動する病院職員の育成 ➢ 業務の効率化の支援 (ICT化基本構想に基づく業務の効率化)
人材支援	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 医師・看護師等のグループ内派遣 ➢ 多職種チームによる支援(タスクシフト/シェアの推進等)
資金調達支援	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 内部資金からの運転資金貸付 ➢ 外部借入の内製化による支払利息の削減

エ. 「グループとして支援する施設」に対して本部が経営に関与(ガバナンス)する内容

		グループ 支援病院	グループ 重点支援病院	本部管理病院	備考
月次報告資料	職員配置状況表	○	○	○	
	設備投資整備計画書	○	○	○	
	資金計画表	○	○	○	
	管理会議議事録等	○	○	○	
年次報告資料	経営改善計画書	○	○	○	
	ロードマップ	○	○	○	
	ガントチャート	○	○	○	
病院経営対策検討部会	借入金の適減	△	△	○	△経営会議で特に必要と認められた医療施設が適用対象
	病院の方向性の検討	△	△	○	
大型医療機器共同入札	共同入札への参加	○	○	○	
医薬品・診療材料等共同購入	共同購入への参加	○	○	○	
資金管理	赤字補填資金借入のリファイナンス	○	○	○	
経営会議審議事項	借入金が増額となる借入	○	○	○	200床未満の場合5,000万円以上、 200床以上の場合1億円以上の 物品購入や営繕等の設備投資
	物品購入等		○	○	
	医療職(三)		○	○*	次年度採用計画
	医療職(二)、一般職(一) 一般職(二)、福祉職		○	○*	次年度採用計画及び 期中の増員・退職補充
	その他:病院経営対策検討部会が 特に必要と認める事項			○	

※本部管理病院は、原則退職不補充

才. 新たな内部資金制度の導入にかかる取組み

(ア) 目的・ねらい

借入金の内製化

(金融機関からの外部借入は新制度の導入に伴い、内部借入へ移行)

□ 内部資金の有効活用

- 外部への資金流出の抑制
- 預金と借入金の一元管理

□ 安定した財政基盤の確立

- 負債の削減
- 経営改善の着実な遂行

グループ全体で保有する

経営資源の要である

「**資金の最適化**」を目指す

(イ) 導入スケジュール

● 令和6年度(実施中)

- 新たな内部資金制度にかかる関係規則の制定及び改正
- 赤十字病院グループにおける内部資金運用システム(CMS)の導入準備

※CMS…Cash Management System(キャッシュ・マネジメント・システム)の略で、グループ内の資金運用を効率化するシステム

● 令和7年度

- 新たな内部資金制度の運用開始(9月～)
- 運転資金(短期借入金)の調達を外部借入から内製化
- 設備投資資金(長期借入金)にかかる内製化の検討開始

● 令和10年度以降(予定)

- 設備投資資金(長期借入金)の調達を新たな内部資金制度へ段階的に移行

(ウ)制度の全体像

※令和7年9月以降、運転資金借入金に適用

医療施設特別会計



預入施設

預金

利息受取り

預金

利息受取り

新たな内部資金制度の創設

内部資金運用システム (C M S) 口座

<財源>

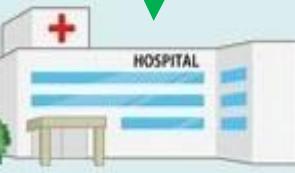
- 各施設の任意の余剰資金
- (本部による資金の一括調達)

経営改善にかかる支援と
ガバナンスの強化

借入(外部より低利)

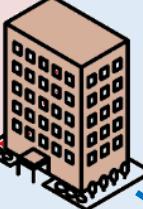
確実な返済履行

移行



借入施設

返済
借入



本部

借入
返済

外部



銀行等

<各地域において継続する銀行取引>
職員給与口座、業者支払口座、長期借入金

4. 収支予算概要(医療施設特別会計)

(1) 令和7年度医療施設特別会計収支予算のポイント

【収入】

○地域の医療機関との連携強化、入院診療収益の増加

新入院患者数 76万人 ⇒ 79万人 (参考: 令和元年度 81万人)

【支出】

○患者数増加を見込んだ高額医薬品や手術材料の使用量の増、価格の高騰

材料費 3,666億円 ⇒ 3,771億円 (105億円 (2.9%) 増加)

○「働き方改革」や施設基準に対応するための人員の増強

給与費 5,658億円 ⇒ 5,742億円 (84億円 (1.5%) 増加)

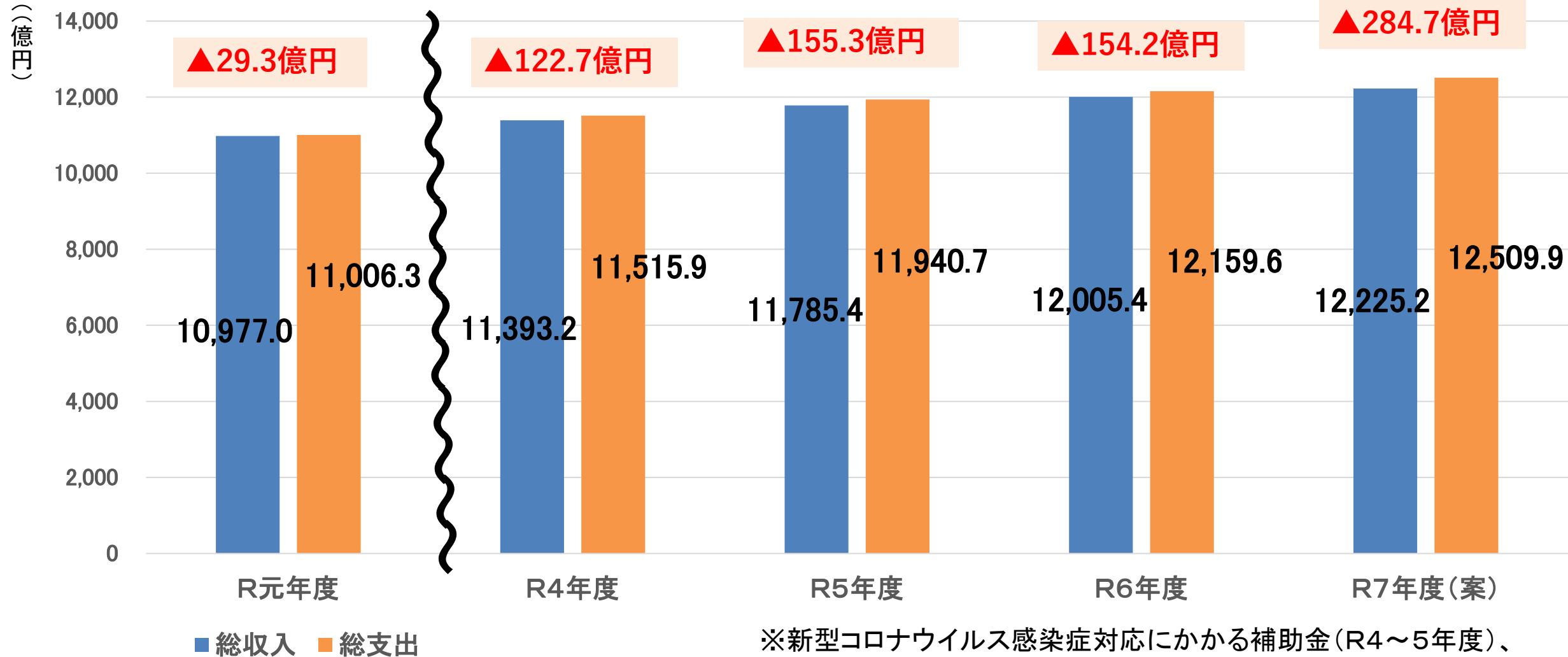
○病棟建築や医療機器・電子カルテシステム等の更新・整備

設備関係費 1,150億円 ⇒ 1,220億円 (70億円 (6.1%) 増加)

(2) 総収支予算の推移

…収支差額

※0.1億円未満切捨て

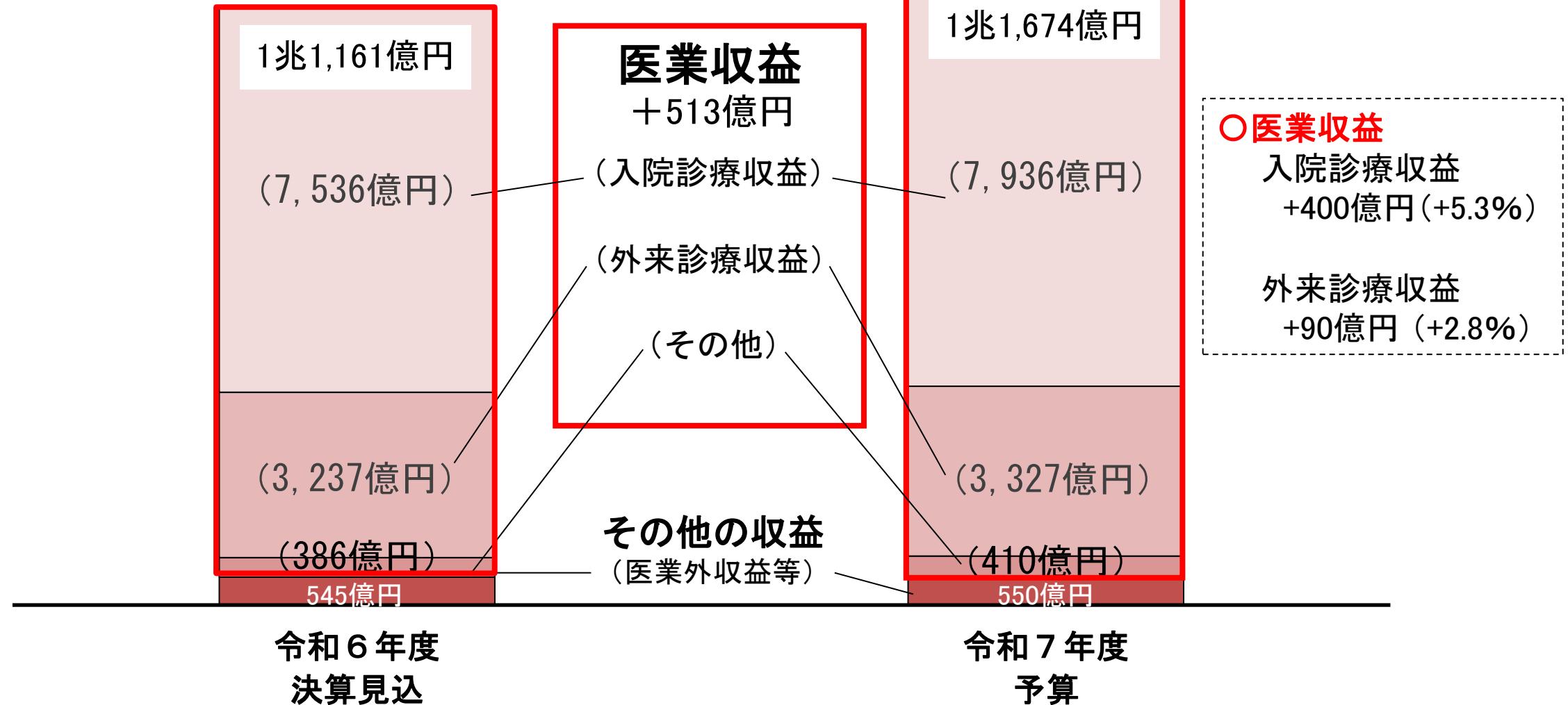


(3) 収支予算のあらまし

※1億円未満切捨て

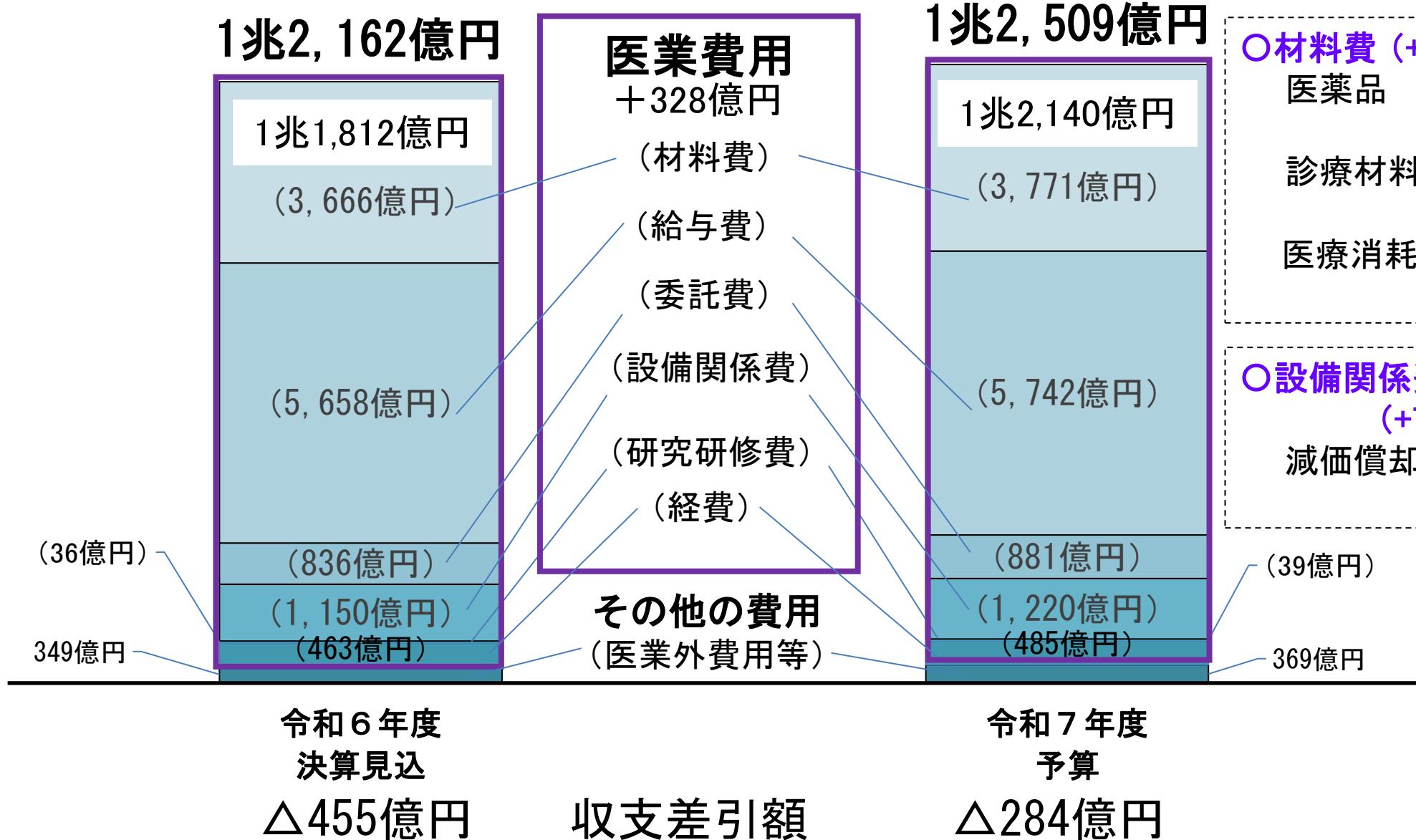
① 収益的収入

1兆1,707億円



② 収益的支出

※1億円未満切捨て



○材料費 (+105億円 (+2.9%))

医薬品	2,410億円 (+66億円)
診療材料	1,240億円 (+35億円)
医療消耗品等	120億円 (+4億円)

○設備関係費 (+70億円 (+6.1%))

減価償却費	763億円 (+38億円)
	(39億円)

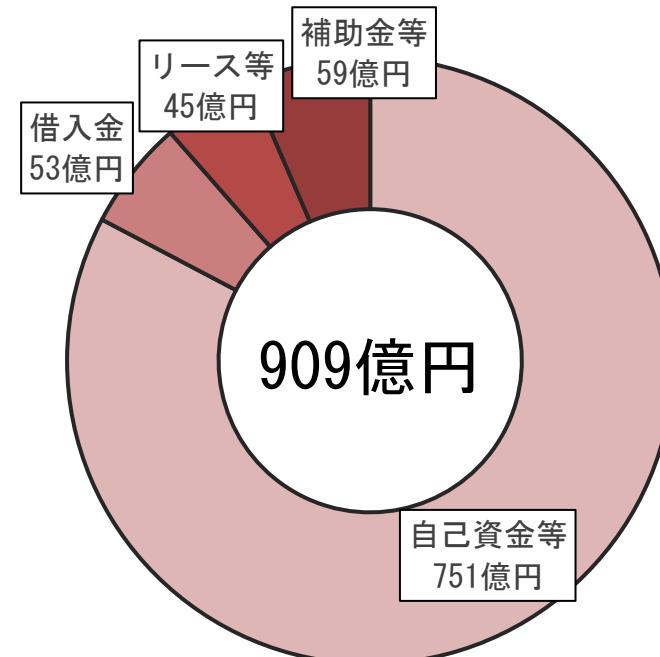
(39億円)

369億円

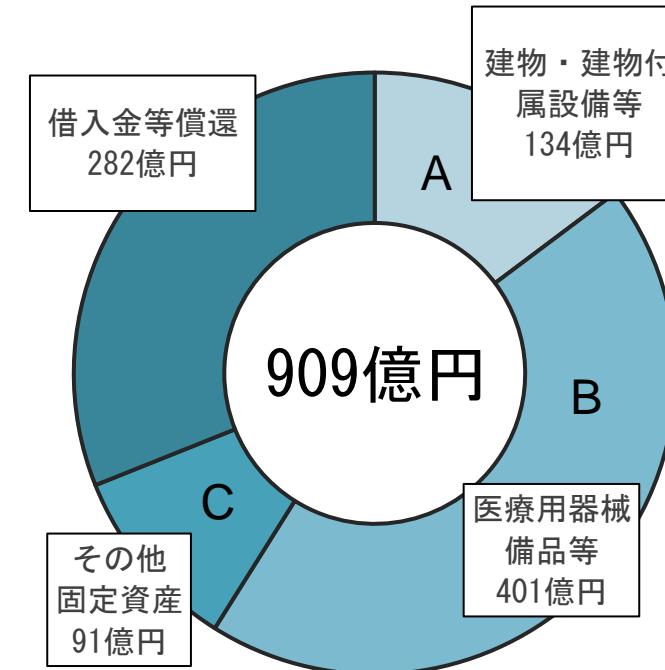
③ 資本的収支

※1億円未満切捨て

【収入】



【支出】



固定資産の取得
計626億円

固定資産 [A+B+C] (内訳)	金額	借入金等償還 (内訳)	金額
建物・建物付属設備等	134億円	借入金等償還	227億円
医療用器械備品等	401億円	リース未払金支払	45億円
車両等	4億円	その他負債返済	10億円
無形固定資産	87億円		

【建設中/設計中の施設】

栗山、成田、武藏野、長野、大分

※1億円未満切捨て

5. 今後の取り組みの方向性

個々の病院では乗り超えられない課題にグループとして対処

医療従事者の
確保

地域医療構想
への対応

専門性の高い
看護師の養成

グループ経営
の推進

「ヒト」「モノ」「カネ」「DX」の
経営資源を最大限に有効に活用

赤十字病院グループのビジョン

良質な医療提供の継続

持続可能な病院経営